

「人生85年時代」に向けたリ・デザイン

「人生85年時代」を迎え、価値観が多様化する中で、従来典型的だった「20歳前後までは学校に通い、定年までひたすら働き、その後は年金生活で余生を過ごす。」といった年齢で輪切りにする人生設計は、誰もが自分らしく幸せな人生を全うするという理想をかなえる上で時宜に合わないものとなりつつある。

このため、国民一人ひとりが健康で充実した暮らしを送れるよう人生設計をデザインし直し（リ・デザイン）、トライアスロン型の生涯現役の社会づくりを進め、自分らしい「花のある生き方」を実現するため、以下のとおり提言する。

1. 子どもの頃から、文化を学び、他者に支えられていることを学びながら「自分づくり」に励もう。

- 音楽・詩歌・絵画など芸術・文化を楽しく学ぶ機会づくり
- ふれあい授業、課外活動、インターンシップ等を通じた体験的な学びの推進
- 学校、地域、企業において、老いや病を抱え障害や死に直面している人々のケアに参加し、「死を学びより良く生きるカリキュラム」の普及・定着

2. 若い頃から、何度でも学び、年齢にかかわらず働き、世代を超えて交流していこう。

- 一生の間に何度でも学び直すことができる環境整備
- 採用から退職まで一律に年齢で区切らない雇用システムづくり
- 文化芸術活動やスポーツなど共通の関心で結ばれた人々の世代を超えた交流

3. 仕事と生活のバランスのとれた働き方を実現し、持てる力を存分に発揮していこう。

- 正社員を希望するフリーター等に対する強力な支援を通じた雇用や生活の安定
- 長時間労働の抑制に向けた労使の取組の促進
- 職業キャリアの節目における心身の充実や職業能力の磨き直しに向けた長期休暇制度の普及
- 年中無休の24時間営業など働き方に影響するサービスの在り方の見直しに向けた議論や取組

4. 生きる知恵や経験を「世間」で活かし、人のために役立つ生き方をしよう。

- 地域における芸術・文化・スポーツなど交流の機会を広げるまちづくり
- 地域貢献活動への住民参加、地域における関係者の協働の促進
- 老いや介護の問題にも配慮した多様な住まいづくり